

姫路顕栄教会

# エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

## 新年を迎えて

～見えるものへの希望ではなく～

見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望みます。(ローマの信徒への手紙8:24-25)

新年おめでとうございます。

大晦日から元旦まで時間経過としてはただの1日しかありません。しかしお正月の朝はやはり「新しい」という思いを持つのではと思います。この「新しい」という思いは時間経過に関わるものではなく、今年こそはと「希望や夢」を抱くことから生まれてくるのではないのでしょうか。

夢や希望を抱く時、私たちの思いや気持は新たにされます。しかしそうした夢や希望が「目に見えるもの」の場合はどうでしょうか。私の子供の頃に流行っていた漫画などにSFものが多くありました。未来は科学がさらに発展し、様々な驚くべき、また便利な「もの」が発明されて、明るくワクワクする世界のように思えました。

しかし当時、荒唐無稽な夢物語と思えた「もの」が今や夢ではなく現実のものとなり、ビデオ通話ができる携帯電話やパソコンはありふれたものとなっています。

しかしそういう「もの」が現実となっても、当時夢に描いていた明るい未来が来ているとは思えません。

それだけでなく世界や社会に目を向けると当時と変わらず、それ以上に深刻な紛争、暴力、格差社会、また温暖化等の環境破壊に見舞われています。

ローマの信徒への手紙8:22に「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています」とあります。

世界にはうめきや苦しみがあります。そこから目を背けて夢を見るのは現実逃避でしかありません。そのような世界の苦悩の中に、なおも希望が与えられていることを聖書は告げています。

そしてこの希望ということで大切なことは「見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか」ということです。

一昨年からはまった新園舎建築、教会建物改修工事などがすべて完了し、長年夢見てきた新装なった教会・幼稚園が与えられました。きれいな集会室や玄関ホール、清潔な洗面所など嬉しくなります。心から感謝したいと思います。しかしそれでもこれらの目に見える建物や施設は、それが当りに思えてくる時がやがてくるでしょう。

新しい年を迎えた今、目に見える素晴らしい建物・施設を与えられた喜びを励みとし、またそれらを十分に生かしながら、福音宣教、と愛の交わりなど「目に見えないものへの希望」の実現に向けて歩み出し、共に神の栄光を現して参りたいと思います。